

現在通信 From NEW YORK

アート活動を展開したイーアン・バクスター夫妻のN.E. Things Co. (略称NETCO) などもアメリカではよく知られている。

しかし、それ以上となると必ずしも名前が出てこなくても不思議ではない。

しかしながら

ら、カナダの内側から見ると、

カナダのコンセプチュアル・アートと聞いて、どんな作家名が思い浮かぶだろうか？

先進的な映像作家、マイケル・スノウやエイズ関連のアクティビズムで知られるジェラルド・アイディアは有名だが、カナダの出自を意識する人は少ないだろう。

会社組織を設立して

主要機関を巡回する。

(www.jimgallery.ca/exhibitions.html)

「トリフィック」交

通と題された企画で、

アメリカとの交流をも

交えながら展開しつ、

広大な国土に点在する

州都や主要都市でそれ

ぞれ独自の進展を遂げ

た様相を探る。

「たちが総力で作品や資料を掘り起こした。たとえば、ノバスコ

シア州は、NSCAD

(ノバスコシア・カレッジ・オブ・アート・デザイン) が、ジョー

ゼフ・コースをほじ

めとするNYの作家た

ちにレジデンスや版画

ワークショップを

提供して、個展や

出版におけるコン

ユアリズムだけ

に、綿密な調査が

欠かせない。参加

機関のキ

ュレータ

アン・バクスター

自作を前にトークするNETCOのイー

アン・バクスター

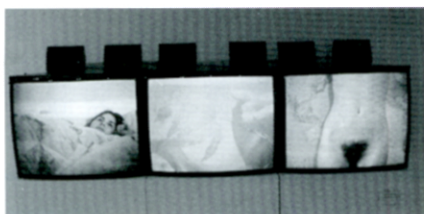
アン・バクスター

アン・バクスター

アン・バクスター

アン・バクスター

カナダのコンセプチュアル



リサ・スティール「内なるポリノ」1975-76年
3チャンネルビデオ ともに筆者撮影

セブチユアリズムの重要拠点となった。

ダン・グレアムの雑誌掲載の作品(ホーム

ズ・フォア・アメリカ)やウィット・アコンチの

パフォーマンス写真など、モノ性の希薄な作

品が、今一度版画として当時から系統的に作

品化されているのは、

米加の交流だけでなく、コンセプチュアリ

ズムの歴史や収集、保存を考える上で非常に

重要な試みだ。

また、アメリカから

徴兵忌避の若者が集ま

ったトロントやモント

リオールでも人的交流

が盛んで、政治

性の高いコンセ

プチュアリズム

の台頭をみたし、全般

にフェミニズム色の強い女性作家の存在も注

目に値する。

展覧会に関連して行

われた国際学会では、

2日間で総勢30人近く

が発表する濃密な企

画。私も招待されて、

松澤有の発表をした。

アメリカからは近く

て遠いカナダだが、むしろ日本からは遠くて

近い国のようにも思われる。超大国アメリカ

の後につく日本とカナ

ダは、資本主義でも民

主主義でも歴史的には

先頭というより二番手

の立場。それは戦後美術の力関係にもあては

まる。それでいて、カ

ナダが自国の現代美術

にこれだけの価値を見

出して学術的な研究対

象としていることは印象深かった。日本は言

うに及ばず、アメリカ

でも、これだけの研究者の層の厚みと研究の

質は見られないかもしれない。そういう意味

でも、非常に触発される試みである。

(富井玲子)